

那須烏山

— No.112 —

2015
January

1

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

イルミネーションin那須烏山……………	2
那須烏山マラソン大会……………	6
第5回市議会定例議会……………	8
まちの話題……………	14
インフォメーション……………	16

市イメージキャラクター



やまどん ここなす姫 からすまる



幻想の世界(12月17日(水)、イルミネーションin那須烏山にて)



イルミネーション in 那須烏山

27万個の光がまちを彩る

毎年恒例の「イルミネーションin那須烏山」が12月12日(金)から1月4日(日)まで、山あげ会館西側公園を会場にして初めて開かれました。23日(火・祝)のクリスマスイベントでは、3年ぶりにステージパフォーマンスが再開されたほか、子ども花火大会やクリスマスプレゼント配布などが行われ、市内外から訪れた大勢の人々ににぎわいました。

南那須町から引き継がれ、今回で14回目を迎えたイルミネーション。これまで、ボランティアの協力もあり、電飾の増設やイベントの充実など毎年様々な工夫を凝らして来場者を楽しませています。

今月号では、14年間続くイルミネーションについて振り返ってみましょう。



幻想的な光の世界へようこそ クリスマスイベントも大好評

観光協会や市民ボランティアなどで組織されるイルミネーションin那須烏山実行委員会(佐藤那須烏山実行委員長)による「イルミネーションin那須烏山」が、山あげ会館西側公園周辺を会場に、那須烏山商工会と協賛で開催され、27万個の幻想的な光で来場者を魅せました。

14回目を迎えた今回のイルミネーションは、会場を市役所南那須庁舎前公園から山あげ会館西側公園に移し、初めて開催されたほか、全体的にレイアウトが見直され、烏山地区らしい山あげ祭の背景、はりか山や龍門の滝と清流「那珂川」をイメージしたイルミネーションが新設されました。

12月12日(金)の点灯式では、大勢の地域住民が見守る中、佐藤委員長や来賓など代表者5人がスイッチ・オン。闇の中に浮かび上がる華やかな光に見物客からは大きな歓声と拍手が起りました。



山あげ祭と龍門の滝などをイメージしたイルミネーション。

イルミネーションは、午後5時から9時まで毎日点灯。もつ煮やおしろこ、うどん・そばなど地域の食事処から模擬店が出店され、温かい料理とおもてなしで来場者の身体を温めました。また、12月20日(土)、21日(日)、28日(日)には、尺八や常磐津の演奏などステージパフォーマンスが行われ、最終日の1月4日(日)まで、市内外から多くの家族連れやカップルなどが訪れ、連日にぎわいを見せていました。



12月23日(火)には、イルミネーションをさらに楽しもうと、「クリスマスイベント」が開かれました。震災などの影響もあり中止していたステージを3年ぶりに再開。そのほか様々な催しが企画され、市内外から大勢の人々が足を運びました。

会場周辺の山あげ烏章館では、日本舞踊や民話、太鼓、ヒップホップダンスなどの団体によるステージが繰り広げられ、会場を盛り上げました。商工会駐車場では、わくわく商品券謝恩セール抽選会や「こなす姫」たちから子どもたちへクリスマスプレゼント配布、子ども花火大会など多彩な催しを次々と展開。イベント終了が近付くと嵐山睦による万灯神輿(みづかみこ)が繰り出され、威勢の良い声が会場中に響きわたりました。

また、点灯式には、地域住民ボランティアによる「豚汁」が無料で配布されたほか、模擬店には、大勢の人が列をつくり温かい料理に舌つづみを打っていました。



①宗家西川流西川会 ②烏山語りの会
③那須烏山市ふるさと太鼓 ④紗喜千代会
⑤フラレアダンススタジオ ⑥Rohgh Diamond
⑦烏山子ども常磐津 ⑧烏山紙漉き唄保存会 ⑨Jelly Beans
⑩千草会 ⑪千珠流千珠会。



14年間の歩み 地域の活性化に向けて

今から14年前、「暗い世相、住民に少しでも夢と希望を与え、地域の活性化に役立てたい」と旧南那須町で始まった「タウン・イルミネーション・プロジェクト」。年の瀬が近づく各地でイルミネーションが話題となりますが、県内でその先駆けとして真っ先に取り組んだのが、「みなみなすタウン・イルミネーション」でした。きっかけは、平成13年1月に、新年を迎えるにあたって開かれた「カウントダウンプロジェクト」。このとき、南那須町商工会の有志がボランティアを募って制作したイルミネーションと巨大壁画が好評を博し、同年12月に南那須町の商工会のまちおこしグループ「21世紀夢委員会」が現在の市役所南那須庁舎前公園で行ったのがイルミネーションの始まりです。

場者が楽しめる仕掛けが随所に施され、県内では、群を抜くスケールとボランティアによる企画・運営が話題となり、テレビや新聞等でも大きく取り上げられました。その後も、レイアウトの変更や電飾の増設など様々な工夫で来場者に感動を与えました。

また、当初から続いたクリスマススイベントでは、地域の団体や小中学校による踊りや歌、演奏なども披露されたほか、サンタクロースによるプレゼント配布なども行われました。そのほか、クリスマスイヴの夜にサンタとトナカイが、抽選で当たった当選者に自宅訪問する「サンタの夢配達便」も行われ、多くの子どもたちを楽しませました。

23年からは、東日本大震災による被害もあったことから、24万個の電球のほとんどをLED化したほか、点灯期間や時間を例年より短縮、ステージイベントを自粛するなど節電に配慮しての開催となりました。また、被災地のいち早い復興、そして、市民が団結し頑張ろうという思いを込めて「絆」の文字のイルミネーションが飾られました。

それから3年経った今回、「鳥山地区でもやってみてはどうか」という実行委員会の提案から、新たに会場を市役所南那須庁舎前公園から山あけ開館西側公園に移しての開催となりました。

また、12月23日(日)に行われた「クリスマスイベント」では、イベントの企画から会場設営など準備はすべて会員の手で進められました。当日は、タイムスケジュールの管理やステージ出演団体などの対応に追われ、忙しく立ち働く会員たち…。しかし一方で、多くの家族連

支えるボランティアたち 楽しめるイベントを提供

市観光協会や地域ボランティアによって組織されるイルミネーションin那須鳥山実行委員会。今回のイルミネーションを企画するにあたり1回目の会議が開かれたのは8月中旬のことでした。会場の移動により大規模なレイアウトの変更が必要なことから、新たに実行委員会の中に、イルミネーション電飾配置等を企画する企画委員会を設立し、その後、4回にわたり会議が行われました。話し合いの中で、「鳥山らしいイルミネーションにしたい」という会員たちのアイディアから、鳥山を象徴する「山あげ」の山や龍門の滝と清流、那珂川をイメージした装飾が企画されました。

飾りつけが開始されたのは、11月8日(日)。約1ヶ月間かけて延べ1000人の会員やボランティアが約27万個の電飾を飾りました。そのほか、山あげ祭の背景「はりか山」を見立てた高さ約9メートルの山は、今回のために手作りしました。

ボランティアの協力で年々規模を拡大し、15年からは、南那須観光協会内に実行委員会を組織して引き継がれました。その頃には、当初、約4万個だった電飾も約10万個、翌年には15万個に増やし、現在ではお馴染みとなった光のアーチや小人の森の増設、音の演出なども行われました。17年には、南那須町と鳥山町の合併によって、鳥山のボランティアも運営に協力し、さらに盛大なものとなりました。18年には、電飾を20万個にスケールアップしたほか、来

また、12月23日(日)に行われた「クリスマスイベント」では、イベントの企画から会場設営など準備はすべて会員の手で進められました。当日は、タイムスケジュールの管理やステージ出演団体などの対応に追われ、忙しく立ち働く会員たち…。しかし一方で、多くの家族連

サンタクロースが生演奏をプレゼント

ボランティアグループMAKE (高森康夫会長)による「サンタクロース事業」が12月6日(日)に行われました。

この事業は、こども発達支援センター「くれよんクラブ」に通う家庭をサンタやトナカイに扮したメンバーが栃木県交響楽団有志「エンゼル楽団」とともに訪問し、バイオリンやビオラ、チェロなども弦楽四重奏の生演奏を届けるものです。

当日は演奏のほか、プレゼントも贈られました。サンタ訪問を心待ちにしていた子どもたちは、満面の笑顔で少し早いクリスマスを楽しんでいました。



子どもたちにプレゼントを渡すサンタ。



エンゼル楽団とふれあう。

クリスマス会で国境を越えて交流深める



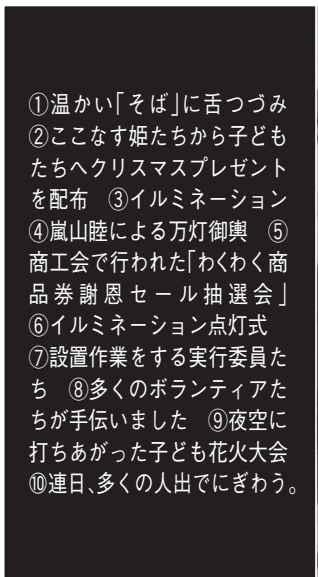
インドネシア民族舞踊を披露。



ジングルベルを全員で合唱。

那須烏山市国際交流協会(東原民範会長)では、12月17日(木)、風月カントリー倶楽部で、第9回「国際交流クリスマス会」を開き、7ヵ国63人の外国人を含む市民や会員130人が参加しました。

会場では、オープニングを終えると、さっそく交流がスタート。食事をしながら会話をしたり、ビンゴゲームなどをしたりして交流を深めました。そのほか、小宅流下境(はやし)囃子方保存会によるお囃子の演奏や、矢崎部品(株)の研修生によるインドネシア民族舞踊が披露され、参加者は異国文化に触れました。最後には、全員で歌を合唱するなど楽しいひと時を過ごしました。



⑧



⑨



⑩

れやカップルなどでにぎわう会場を見渡し、「よかった」とほっとした様子で肩をなでおろす姿もみられました。

クリスマスのわだい

那須烏山マラソン大会

記念すべき10回大会、過去最多の2034人が快走



快晴無風と絶好のマラソン日和となった、12月7日(日)、保健福祉センターを発着点に第10回「那須烏山マラソン大会」が開催され、県内外から2034人のマラソン愛好者が那須烏山路を駆け抜けました。

同大会は、市、教育委員会、体育協会による実行委員会(松本武委員長)が主催するもの。今大会では、ゲストランナーとして、栃木県黒磯市現・那須塩原市出身で三井住友海上女子陸上部の渋井陽子選手を招き、2キロ親子コースを走ったほか、5キロのスターターを務めました。また、ハーフコースの一部を変更。参加者は、昨年より約300人増え、過去最多のエントリーでした。

開会式では、松本武実行委員長が、「全国各地からの参加がとて嬉しい。2年後には栃木国体、6年後には東京オリンピックがある。今大会の参加者からも出場できるように頑張ってください」とあいさつ。ゲストランナー紹介では、渋井陽子選手が、「タイムにこだわらず、楽しく走りましょう」と激励の言葉を述べました。そして、北は北海道、南は奈良県と、遠方からの参加ランナー19人に、「はるばる来たで賞」として、市の特産品が実行委員長から手渡されました。

その後、ランナーは、ウォーキング、ハーフ、5キロ、3キロ、2キロ、親子コースの順に会場をスタート。「那須烏山市ふるさと太鼓保存会」の

部門別上位入賞者

(敬称略)

■ 2 kmコース

【小学生5・6年男子】①金子翔洋(千葉県) ②平井駿(那須塩原市) ③亀井大生(宇都宮市)

【小学生5・6年女子】①吉澤ひまり(埼玉県) ②斉藤ひな(真岡市) ③内藤未唯(那須烏山市小倉)

【親子(幼児～小学2年生)】①鈴木利勝・結斗(福島県) ②清水寿之・大貴(宇都宮市) ③疋田孝路・知希(宇都宮市)

【親子(小学3・4年生)】①阿部広美・青希(岩手県) ②赤地好教・万理(茨城県) ③橋本良浩・凜太郎(宇都宮市)

■ 3 kmコース

【中学生女子】①柳田里穂(茨城県) ②石崎未久(茨城県) ③中山彩奈(那須烏山市藤田)

【一般女子】①尾関真衣(福島県) ②酒井智美(千葉県) ③山田寿子(宇都宮市)

【男子全般】①須藤恒気(千葉県) ②鈴木裕野(那須烏山市中央3丁目) ③柳田尚皓(那須烏山市福岡)

■ 5 kmコース

【中学生男子】①小村悠樹(那須烏山市南1丁目) ②渡邊海人(那須烏山市鴻野山) ③大森翔(那須烏山市曲畑)

【一般男子39歳以下】①館野雄一(小山市) ②小貫琢麻(那須烏山市志鳥) ③江川孝宏(日光市)

【一般男子40歳以上】①大久保茂(益子町) ②河和健治(那珂川町) ③高橋玄洋(茨城県)

【一般女子39歳以下】①溝上優(静岡県) ②蛭田結衣(さくら市) ③川野真由美(佐野市)

【一般女子40歳以上】①仲江川久美子(栃木市) ②小松原美貴(那須烏山市南1丁目) ③伊藤和子(福島県)

■ ハーフマラソン

【一般女子18歳以上】①坂本和子(福島県) ②亀井ひさえ(宇都宮市) ③田辺真理(群馬県)

【一般男子16歳～39歳】①中里綾介(埼玉県) ②安田有輝(茂木町) ③生井佐助(茂木町)

【一般男子40歳～49歳】①秋山尚洋(東京都) ②立花則夫(愛知県) ③高坂治彦(福島県)

【一般男子50歳～59歳】①岩寺宏二(埼玉県) ②渡邊良勝(宇都宮市) ③亀田孝幸(真岡市)

【一般男子60歳以上】①東爪完治(那須塩原市) ②大木己芳(那須烏山市野上) ③小林章(宇都宮市)

■ ウォーキングは記録なし



①ハーフコースのスタート ②お疲れ様のハイタッチ ③那須烏山市ふるさと太鼓保存会の威勢の良い演奏 ④豚汁コーナーに大行列 ⑤おいしい豚汁いただきます ⑥「はるばる来たで賞」を配布 ⑦手をつないで親子マラソンスタート ⑧ピストルの合図で一斉にスタート ⑨ウォーキングで景色と会話を楽しむ ⑩接戦! ⑪子どもに手を引かれてゴール ⑫快走 ⑬給水所で水分補給 ⑭ゴール後の一息 ⑮仮装ランナーも参加 ⑯表彰式で渋井選手と記念写真 ⑰「2年ぶりの出場で前回よりもタイムを縮められて良かった」と話すハーフコースの全体優勝を決めた中里さん ⑱随時行われた表彰式 ⑲渋井選手の見送りでウォーキングをスタート。

皆さんによる威勢の良い演奏でランナーを送り出しました。ランナーたちは、沿道の声援を受けながら次々にゴールを駆け抜け、さわやかな汗を流していました。中には、クリスマスツリーやトナカイなどキャラクターに扮したランナーも見受けられ、大会を盛り上げました。

会場では、疲れを癒してもらおうと、食生活改善推進団体連絡協議会と興野農産物直売所の協力による豚汁約2100食を無料で提供。豚汁を頼るランナーたちの満足気な笑顔がみられました。

本部テント前では、随時、表彰式が開かれ、大会役員から、各種目の上位6人に表彰状や記念品が手渡されました。また、入賞を逃したランナーたちにも、ランダム抽選の飛び賞、そのほか大会参加者全員には、特別賞として、市内の温泉3ヶ所の割引券や山あげ会館の無料入場券が配布されました。





平成26年度予算5会計で補正

一般会計総額は12億8566万1千円

平成26年第5回市議会12月定例会が、11月28日(金)から12月10日(水)までの13日間の日程で開かれ、平成26年度補正予算や条例の制定など16議案を原案どおり可決、陳情書1件を採択しました。

主な内容は次のとおりです。なお、詳しくは、議会事務局 ☎0287-8817 114までお問い合わせください。

専決処分の承認

一般会計補正予算1930万円を増額し、総額120億3447万3千円とする専決処分を承認しました。内容は、12月14日に執行された衆議院議員総選挙の経費です。

5会計の補正予算

○一般会計

歳入・歳出ともに1億5079万4千円増額し、補正後の予算総額を12億8526万7千円としました。

主な内容は、放課後等デイサービス利用者増加に伴う障害児通所給付費など障害者総合支援事業費の増額分787万5千円、高齢者予防接種委託料のワクチン料金改定に伴う増額分300万円、農業者戸別所得補償制度対象者の増加等に伴う費用324万1千円、

那須烏山そば生産組合の汎用コンバイン

導入費用330万8千円、地籍調査成果の電子情報化費用1065万9千円、道路維持補修のための融雪剤購入費用及び除排雪業務費用605万6千円、烏山小学校のプール管理棟改築費用3000万円、荒川・下江川中学校統合事業費1513万9千円などです。

○特別会計

国民健康保険の事業勘定は、職員手当の増額、人間ドック検診補助金の増額及び前年度療養給付費等負担金交付金等の確定に伴い、1402万6千円増額し、36億358万円としました。

○企業会計

水道事業は、配水管及び給水管の漏水修繕費用として収益的支出を394万5千円増額し、6億72万9千円としました。また、資本的支出は、工事請負費の予算執行残268万8千円を減額し、3億1775万7千円としました。

○特別会計

後期高齢者医療は、後期高齢者医療保険基盤安定制度負担金の増額に伴い、

○特別会計

後期高齢者医療は、後期高齢者医療保険基盤安定制度負担金の増額に伴い、

○企業会計

水道事業は、配水管及び給水管の漏水修繕費用として収益的支出を394万5千円増額し、6億72万9千円としました。また、資本的支出は、工事請負費の予算執行残268万8千円を減額し、3億1775万7千円としました。

○特別会計

国民健康保険の事業勘定は、職員手当の増額、人間ドック検診補助金の増額及び前年度療養給付費等負担金交付金等の確定に伴い、1402万6千円増額し、36億358万円としました。

○企業会計

水道事業は、配水管及び給水管の漏水修繕費用として収益的支出を394万5千円増額し、6億72万9千円としました。また、資本的支出は、工事請負費の予算執行残268万8千円を減額し、3億1775万7千円としました。

○特別会計

後期高齢者医療は、後期高齢者医療保険基盤安定制度負担金の増額に伴い、



明るいまちづくりのために。

条例の制定と一部改正

▽子ども子育て支援新制度で定められた子ども子育て関連3法のうちの一つ「子ども子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合

的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」による改正後の児童福祉法の規定に基づき、「市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」を制定することを原案どおり可決しました。

▽平成26年8月に人事院より、市職員の給料月額及び期末手当等の支給月数を引き上げる勧告がされたことに伴い「市職員給与条例」、「市診療所医師の給与の特例に関する条例」の一部改正しました。また、市長及び副市長並びに市議会議員の期末手当の支給月数を0.15月引き上げるため「市長及び副市長の給与及び旅費に関する条例」及び「市議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例」の一部を改正しました。

▽本市で任用する嘱託職員及び臨時的任用職員の月額または日額の賃金体系について、職種同士の均衡を図るため、「市嘱託職員及び臨時的任用職員の任用、給与その他の勤務条件に関する条例」の一部改正しました。

▽健康保険法施行令等の一部が改正されることに伴い、出産育児一時金の金額を見直すため、「市国民健康保険条例」の一部改正しました。

▽平成27年4月1日をもって、下江川中学校と荒川中学校が統合することに伴い、「学校設置条例」、「運動施設設置

管理及び使用料条例」、「学校施設利用及び使用料条例」の3条例の一部を改正しました。

各委員の人事

11月29日で任期満了となる市固定資産評価審査委員会委員は、引き続き、横山通有氏、岩附淳一氏、鈴木英男氏を選任し、同意しました。

人権擁護委員候補者の推薦について、平成27年3月31日に任期満了となる小林洋子氏を引き続き推薦しました。

その他

・南那須地区広域行政事務組合において、老朽化した「し尿処理施設及びごみ処理施設」の新設整備を進めるために必要な規約の変更について議決しました。

・東日本大震災で受けた公共施設等被害の復興復旧を最優先課題とし、被災した武道館施設をはじめ、学校施設の統廃合、道路整備等に、有利な合併特例債をより効果的・効率的に活用するため、平成17年2月に策定した「新市建設計画」の10年間延長と財政計画の変更について議決しました。

・市議会議長あてに提出された陳情書5件のうち、「市道野上蛇塚線K4301の整備・改修について」が採択されました。そのほか、4件については継続審査となりました。

統合中学校の校名

「南那須(みなみなす)中」に決定

下江川中学校と荒川中学校の統合における校名選定については、那須烏山市立学校統合準備委員会に委ねられ、広く皆様からアイデアのご意見を頂戴し、慎重な審議の結果、次のとおり選定しました。

■統合中学校名

那須烏山市立南那須(みなみなす)中学校

■選定した理由

①南那須地区に1校となる中学校であり、旧南那須町は、旧下江川村と旧荒川村が合併し誕生した歴史的経緯を踏まえ、地域性を有した相応しい名称である。

②地域に馴染んだ名称で愛着があり、読み間違い等が起こりにくい名称である。

③近隣に類似する名称の学校・施設等がないので、誤解されない名称である。

■校名の応募状況と選定の概要

①校名案応募状況の概要

・公募期間

平成26年8月1日から9月19日まで

・校名応募状況

応募件数 383件

②校名選定の経過

校名の選定は、応募された383件を参考に、那須烏山市立統合中学校準備委員会において、統合する新しい中学校にふさわしいか、地域性が現れているか、地域の方々

に親しみやすいか、当て字等読み間違いが発生しないか等に考慮し、慎重な審議を行い選定しました。

校名と同時にアイデアを募集した学校のイメージカラーについては、次のとおり決定しました。

①統合学校イメージカラー

紺色(茄子紺)と若草色

②選定の理由

茄子紺は旧南那須町の色であり、若草色は躍動感を表すことから、歴史と伝統を継承しつつ、新しい中学校として躍動感溢れるイメージを表しています。

以上のとおり、那須烏山市立学校統合準備委員会で校名を選定し、教育委員会で審議後、12月市議会定例会において学校設置条例改正(案)が議決され、正式に統合中学校の名称として決定しました。

ご応募いただいた多くの皆様、誠にありがとうございました。

なお、統合準備委員会の協議事項、その他概要につきましては那須烏山市ホームページをご覧ください。

■学校教育課 ☎0287-8816222